

## B型肝炎母子間感染と母乳栄養

多田 裕（東京都立築地産院）

### 1. B型肝炎ウィルス感染例と栄養方法

HBs抗原およびe抗原が陽性の母親から出生した児に対し、HBIGおよびHBワクチンを用いた予防処置が行われるようになった。

東京都立築地産院では、昭和55年1月以降予防処置を開始したので、栄養方法別の感染率を検討するため、予防処置開始前の昭和50年1月から54年12月までにe抗原陽性の母親から当院で出生した児の栄養方法を調査した(表1)。栄養方法の明らかな19例中17例がキャリア化したが、その栄養方法は母乳栄養8例、混合栄養7例、人工栄養2例であった。17例中2例は一過性の感染でHBs抗体が陽性となったが、栄養方法は母乳栄養と人工栄養が1例ずつであった。当院での生後1ヶ月での栄養方法は母乳栄養50%、混合栄養41%、人工栄養9%となっているので、これと比較して差は認められず、e抗原陽性の母親から出生した児は、栄養方法にかかわらず感染するものと考えられた。

一方、昭和55年以降にe抗原陽性の母親から出生した児に対しては予防処置を行ったが、311例中10例がキャリア化した。

キャリア化した10例および生後7日から1年までHBs抗原が陽性でその後HBs抗体に変った1例の11例の栄養方法を見ると、3ヶ月以内にHBs抗原が陽性となった5例のうち、母乳栄養は3例、混合栄養は1例、人工栄養は1例であった。生後1年以降にHBs抗原が陽性となった6例の栄養方法は母乳栄養4例、混合栄養2例であり、予防処置を実施しても感染した例に母乳栄養の頻度が高いとの傾向は認められなかった(表2)。

### 2. e抗原陰性の母親から出生した児のHBV感染と栄養方法

HBe抗原陰性の母親から出生した児のうち生後6ヶ月以上追跡した161例中の1例と、追跡期間6ヶ月未満の1例にHBs抗原の出現をみたが、この2例はいずれもHBs抗体が出現し、キャリアとなった例はなかった。

HBs抗体が陽性となった一過性感染はこの2例を含め16例あったので、これらの児に対する栄養方法を検討した(表3)。

16例中生後3ヶ月でHBs抗体の出現を見た8例の生後1ヶ月での栄養方法は全例母乳栄養であり、6

～7ヶ月で抗体が出現した8例では、生後3ヶ月まで母乳栄養2例、混合栄養6例で、当院で出生した一般の児と比較し、栄養方法に差を認めなかった。

### 3. 母乳中のHBs抗原の検出

母乳中のHBs抗原をRIA法で測定したが、e抗原陽性の6例およびe抗原抗体とも陰性の1例の母乳中にはHBs抗原は検出されなかったが、HBe抗体陽性の母親から採取した母乳4検体中1検体に低濃度ながらHBs抗原が検出された。

### 4. 結 語

HBs抗原陽性の母親から出生した児の栄養方法の検討からは、感染した児に母乳栄養の頻度が高いとの傾向は認められなかった。

母乳中のHBs抗原の測定では、HBe抗体陽性の母親の母乳中にもHBs抗原が検出されたが、児の感染に及ぼす母乳の意義については、今後検討する予定である。

表 1

H B e 抗原陽性母体から出生した児の栄養法別の感染状況

( 予 防 処 置 開 始 前 )

栄養法	H B s A g / H B s A b			計
	+ / -	- / +	- / -	
母乳	8	1	0	9
混合	7	0	0	7
人工	2	1	0	3
	17	2	0	19

1975.1.1. - 1979.12.31.

表 2

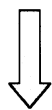
母子間感染予防不成功例のHBs抗原陽性化の時期と栄養方法

	早期陽性例	後期陽性例	予防成功例
母乳	3	4	15
混合	1	2	12
人工	1	0	3
計	5	6	30

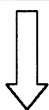
表 3 HB<sub>e</sub>抗原陰性母体から出生した一過性感染児の栄養法

	HB <sub>s</sub> 抗体陽性化の時期		計
	3 m	6 - 7 m	
母乳	8	2	10
混合	0	6	6
人工	0	0	0
計	8	8	16

1987.2.25.



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 4. 結語

HBs 抗原陽性の母親から出生した児の栄養方法の検討からは、感染した児に母乳栄養の頻度が高いとの傾向は認められなかった。

母乳中の HBs 抗原の測定では、HBe 抗体陽性の母親の母乳中にも HBs 抗原が検出されたが、児の感染に及ぼす母乳の意義については、今後検討する予定である。